

GBP / JPY 英ポンド円 月次レポート

前月振り返りと2026年10月の相場展望

発行日

October 1, 2026

対象期間

9月実績 / 10月展望

通貨ペア

GBP / JPY

発行頻度

Monthly

9月末レート（終値）

208.748

-3.55%（9月月間騰落率）

9月高値

216.827

9月安値

206.875

BOE金利

3.75%

BOJ金利

1.25%

今月のハイライト

9月は216.43円からスタートし、208.75円で引け、月間-3.55%となった。日銀の利上げが主因となったとみられる円高がポンド円を押し下げた

BOEは9/17に賛成6対反対3の採決で3.75%を据え置き（6回連続）。グリーン・ビル・マンの3委員が利上げを主張するも、多数意見は現状維持となった

日銀は9/17-18に1.00%から1.25%へ利上げ（賛成7対反対2）。3カ月ぶりの利上げで利上げペースが加速し、円高が進んだ

BOEと日銀の会合が同時期に開催される中で、日銀の利上げが円高材料として強く意識され、英日金利差（計算上で $BOE 3.75\% - BOJ 1.25\% = 2.50pp$ ）は前月比で縮小した

10月 基本シナリオ レンジ

204 - 215円

BOEは次回11/5、日銀は次回10月下旬に会合。両中銀の姿勢が焦点

英日政策金利差

2.50pp

BOE 3.75% - BOJ 1.25% = 計算上の単純比較で2.50pp。日銀利上げにより前月比0.25pp縮小

始値

216.428

9月最初の取引日

高値

216.827

月中最高値

安値

206.875

月中最安値

月間騰落

-3.55%

-7.680円

9月の相場動向

9月のポンド円は**216.43円でスタート**した。9/17のBOE会合では3.75%が賛成6対反対3で据え置かれたが、同日から18日にかけての日銀会合で政策金利が1.25%へ引き上げられると円高が加速した。月中安値は**206.88円**まで下落する場面があった。

BOEと日銀が同時期に会合を開催するという局面で、日銀の利上げがより強い円高材料として意識されたとみられる。英日金利差（計算上でBOE3.75%－BOJ1.25%）は2.50ppとなり、前月比で0.25pp縮小した。月末は**208.75円で引け、月間-3.55%**の下落となった。

主要イベントの影響

GB BOE 9月17日 据え置き

賛成6対反対3の採決で**3.75%を据え置き**（6回連続の据え置き）

3名の委員が4.00%への利上げを主張して反対

MPCの声明では、インフレへの上振れリスクが7月MPRの時点と比べて高まったとの判断が示された。次回は11/5

JP 日銀 9月17～18日 利上げ

政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を

1.00%から1.25%へ引き上げ（賛成7対反対2）。3カ月ぶりの利上げで、利上げペースが加速した形

反対した2名の委員は現時点での利上げには時期尚早との見方を示したと報じられた。植田総裁は会見で今後も機動的な判断を継続する考えを示した

利上げ後も金融環境はなお緩和的と位置づけられている。次回会合は10/29-30を予定（展望レポート公表回）

9月の総括

9月はBOEが賛成6対反対3の採決で3.75%を据え置く一方、日銀が1.25%へ利上げするという展開となった。計算上の英日金利差（BOE3.75%－BOJ1.25%）は2.50ppとなり、日銀の利上げにより前月比0.25pp縮小した。日銀の利上げペース加速が円買い材料として意識されたとみられ、ポンド円は月間-3.55%と下落した。10月はBOEの次回会合（11/5）を前に、英国のインフレ動向と日銀の追加利上げ観測が焦点となる。

10月の注目ポイント

10月は**日銀の次回会合（10月下旬）**が重要な焦点となる。BOEは次回会合が11/5で、10月中の会合はない。日銀が追加利上げを実施すれば円高要因となる一方、英国のインフレ指標（CPI等）が高止まりすればBOEの利上げ観測が強まりポンドを支えやすい。英日金利差は依然2.50ppと相対的に大きいものの、日銀の利上げペース加速観測が継続すれば差の縮小が意識されやすい。値動きが大きくなる可能性に留意したい。

シナリオ別レンジ予測

強気	25%	BOEの利上げ観測が強まり、日銀が据え置き維持でポンド反発	211 – 218円
基本	50%	日銀の追加利上げ観測と英国指標にらみのレンジ推移	204 – 215円
弱気	25%	日銀が早期追加利上げ、またはBOEが慎重姿勢でポンド円下落	200 – 208円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
日銀の追加利上げ観測（10月下旬）	中	円高	追加利上げなら英日金利差のさらなる縮小が意識されポンド円の下押し要因となりやすい
BOEの利上げ観測（11/5）	中	ポンド高	英インフレ高止まりが続けばBOE利上げ観測が強まりポンドが支えられやすい
英サービス業インフレの動向	中	ポンド高	インフレの粘着性が確認されればBOEのタカ派姿勢が維持されやすい
英景気・雇用の悪化	中	ポンド安	景気減速が意識されればBOEの引き締め余地が後退しポンド売りに

10月の見通し

基本シナリオは**204～215円のレンジ**とみている。計算上の英日金利差（BOE3.75% – BOJ1.25%）は2.50ppで前月比0.25pp縮小した。日銀の追加利上げ観測の強弱と英国のインフレ指標が方向性を見極める主な材料となりやすい。BOEの次回会合（11/5）を前に、英国の経済指標に注目したい。

用語解説

BOE（イングランド銀行）

英国の中央銀行。9/17に賛成6対反対3の採決で3.75%を据え置き（6回連続）。3名が利上げを主張。次回11/5。

クロス円

米ドルを介さない円と他通貨の交換レートの総称。ポンド円はドル円とポンドドルの動きに影響を受けやすい。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する基準金利。BOE3.75%とBOJ1.25%の差は計算上の単純比較で2.50pp（為替の方向を保証するものではない）。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。9/17-18会合で政策金利を1.25%へ引き上げ（賛成7対反対2）。利上げペースが加速。次回は10/29-30（展望レポート公表回）。

MPC

BOEの金融政策委員会。9名の委員が投票で政策金利を決定する。9月は賛成6対反対3の採決で据え置き。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）で高金利通貨を運用し金利差収益を狙う取引。リスク回避時の一斉解消は円高要因となりやすい。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。